

研究報告書 98-4

社會環境變化 民營保險
役割() : 年金改革 保險會社 役割

1998. 3

吳英秀
李京姬

保 險 開 發 院
保 險 研 究 所

序言

21

經濟・社會的 環境 變化

情報通信革命

가

無限競爭 深化

老齡化, 가

扶養 가가

, 衡平

效

率

老齡者 所得保障

1988

가

1998 10

全國民年金 時代가

2033

年金基

金 枯渴

가

公私年金制度間 役割分擔,

多樣性

代案的 年金制度

欲

求

年金財政 安定性

役割 再定立

1998

가

基礎國民

年金 所得比例國民年金 二元化 ,

自助努力

가

連繫

效率化

吳英秀

李京姬

李京龍

金基洪

筆者 個人的 意見 ,

가

1998 3

保險開發院

院長 金勝濟

目次

. 序論	1
. 社會・經濟環境變化 年金改革 必要性	4
1. 社會・經濟環境變化 要因	4
2. 年金制度的 要因	12
. 年金改革 類型 經濟的 效果	28
1. 年金改革 類型	28
2. 年金制度 改革 經濟的 效果	39
. 年金制度 改革 方向 年金制度間 調整	49
1. 年金制度 改革 方向	49
2. 公私年金制度間 調整方案	55
3. 退職一時金制度 退職年金制度 移行	61
. 年金制度 改革 公私年金規模 長期展望	68
1.	68
2. 展望 前提事項	70
3. 模型 構造	80
4. 公私年金規模 長期展望	88

5. 加入者 類型別 保險料 負擔 展望	107
. 民營年金 役割 増大 保險會社 對應課題	109
1. 商品開發	109
2.	115
3. 資産運用	117
. 結論	121
<參考文獻>	125
[1] 退職一時金 制度 移行方式: 日本 事例	131
[2] 退職給與充當金 稅制 惠澤	135

表 目 次

<表 - 1>	世界各國 老齡化社會 進行 速度	4
<表 - 2>	失業給與 種類	8
<表 - 3>	4 社會保險料 釀出率 負擔 主體別 國際比較	10
<表 - 4>	生產職 勤勞者 時間當 報酬 社會保險料支出 其他 勞動 關聯 稅金比率 國際比較 (製造業)	11
<表 - 5>	國民年金 釀出制度	13
<表 - 6>	國民年金 給付制度 現況(1997)	14
<表 - 7>	主要 特殊職域年金 保險料率	15
<表 - 8>	公務員年金 適用現況	16
<表 - 9>	私立學校教職員年金 適用現況	17
<表 - 10>	從業員退職積立保險 勤勞者退職積立信託 運營現況	20
<表 - 11>	給與率 調整 保險料水準 財政推計(保健福祉部 改善案)	22
<表 - 12>	公共部門 預託 年金基金 損失額 推定	23
<表 - 13>	公務員年金 退職年金 選擇 推移	24
<表 - 14>	年齡別 公務員年金 受給權者 現況	25
<表 - 15>	公務員年金 財政 推移	25
<表 - 16>	私立學校教職員 年金 財政推移	27
<表 - 1>	年金 民營化 以後 國民貯蓄率 推移	45
<表 - 1>	最低生計費	53
<表 - 2>	標準生計費	54
<表 - 3>	基礎年金 國際比較	57
<表 - 4>	各國 企業年金 公的年金 代替 經緯	60
<表 - 1>	年齡階層別 經濟活動參加率 推計	72
<表 - 2>	農漁民・自營業者 國民年金加入率 推移(全體就業者 對比)	73

<表	- 3>	就業者 對比 事業體 規模別 勤勞者(1995)	74
<表	- 4>	年齡階層別 將來賃金 推計	77
<表	- 5>	基礎國民年金 加入者 受給者 數 推移	89
<表	- 6>	最低生活 基礎國民年金 保險料率	90
<表	- 7>	最低生活保障時 基礎國民年金 財政推計	93
<表	- 8>	所得比例國民年金 加入者 受給者 數 推移	95
<表	- 9>	標準生活 所得比例國民年金 保險料	95
<表	-10>	標準生活保障時 所得比例國民年金 財政推計	97
<表	-11>	退職年金 加入者 受給者 數 推移	100
<表	-12>	退職年金 財政推計(過去勤務債務償還)	102
<表	-13>	退職年金 財政推計(過去勤務債務償還)	104
<表	-14>	事業場 加入者 保險料率 負擔	108
<表	-15>	自營業者 農漁民 保險料率 負擔	108
<表	- 1>	各國 保險會社 他業進出 規制 現況	114
<表	- 2>	償還期間別 會社債 發行 現況	118

圖 目 次

[圖	-1]	人口成長率 推移	5
[圖	-2]	公務員年金 基金 基金增加率 推移	26
[圖	-3]	公務員年金 收支差 推移	26
[圖	-1]	適用除外 職域年金 加入者 保險料	35
[圖	-2]	適格個人年金 加入者 保險料	37
[圖	- 1]	年金改革 概念圖	55
[圖	- 2]	退職年金 移行類型別 推移	64

[圖 - 1]	年金制度 再構成	69
[圖 - 2]	性別・年齡階層別 賃金水準(1996)	75
[圖 - 3]	男性 年齡階層別 賃金格差(1996)	76
[圖 - 4]	年金財政	81
[圖 - 5]	國民基礎年金 財政 推移	92
[圖 - 6]	所得比例國民年金 財政 推移	98
[圖 - 7]	退職年金 財政 推移	102
[圖 - 8]	收入保險料 公私年金間 比重 推移	105
[圖 - 9]	年金支出額 公私年金間 比重 推移	106
[圖 - 10]	積立基金 公私年金間 比重 推移	106
[圖 - 1]	從業員退職積立保險 收入保險料 推移	110
[圖 - 2]	國際分散投資 效率的	120

· 序論

21

老齡化

老齡人口 所得維持 健康

活力

, 中國 社會主義 國家

世界的 趨勢

가

老齡化

經濟成長 調和

가

高度成長

公的 社會保障

社會的 貧困問題

, 1970

가

1990

福祉供給方式

가

自助努力

英國

, 美國 日本

北歐圈 國家

1980

年

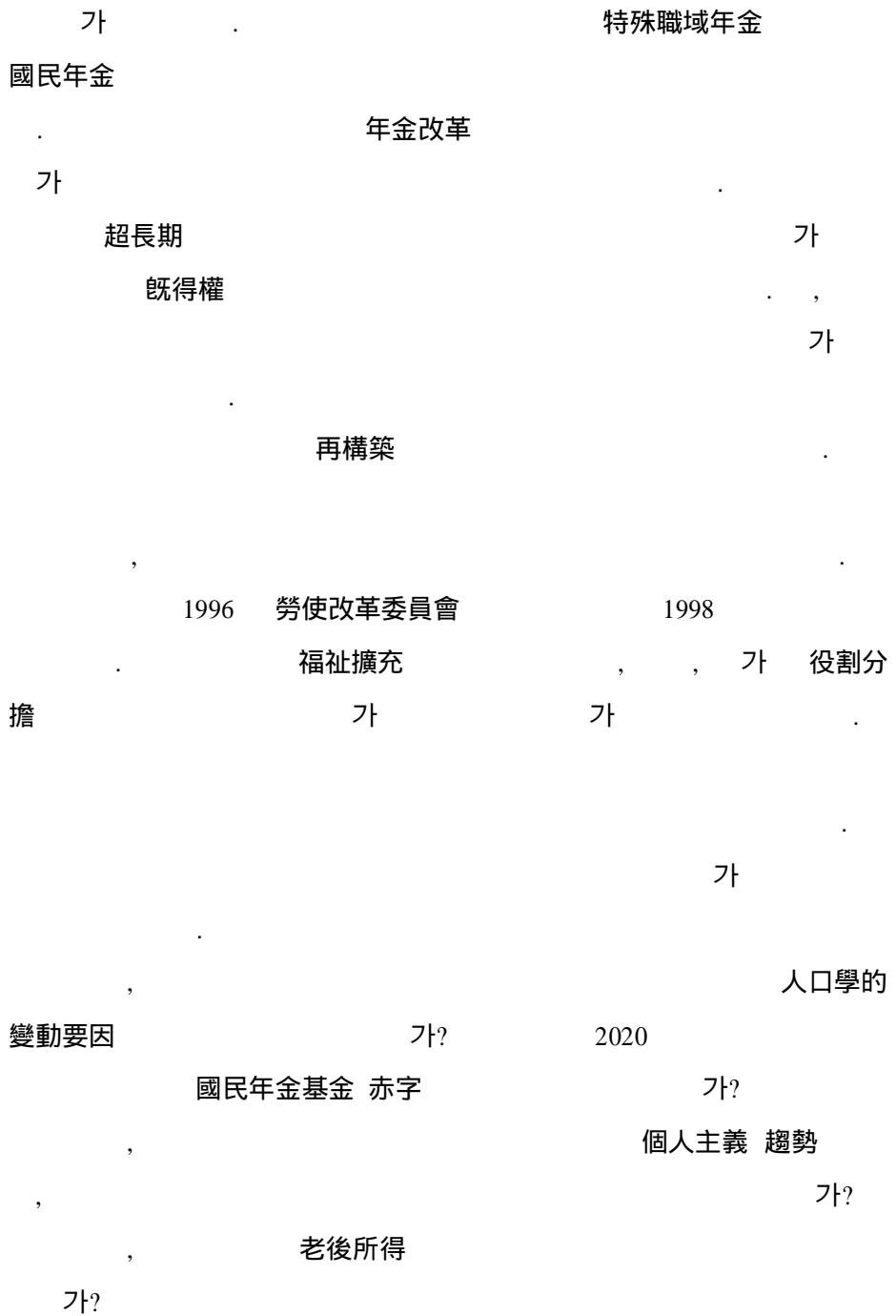
金民營化

가

經濟的 論理

政治·社會的 傳統

公的福祉



가?

公的年金

가 ,

民營年金

退職年金制度

老齡化 雇傭慣行 變化

要因

類型別

經濟的 效果

調整方案

가

長期展望

保險會社 對應課題

2000 가

3) 1960 4.21%

1995 1.56% , 2020 1.08%

差減 自然人口增加率 1995 1.01%

2020 0.19% 가 移

民率 人口成長率 1970 1.82% 1995 0.95%

2028 0%가 가 人口停止

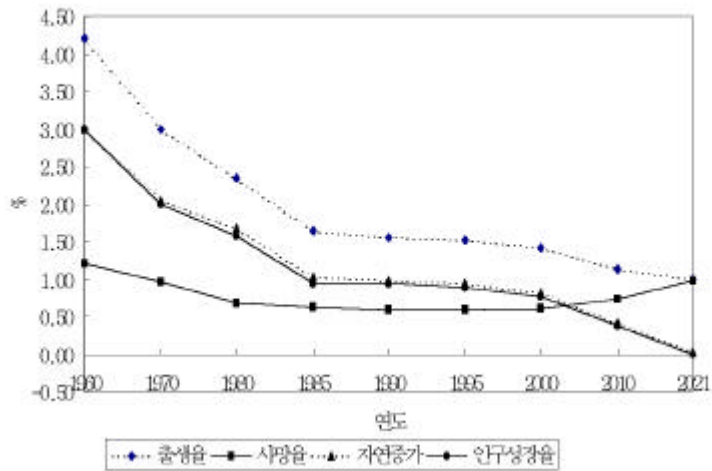
狀態

1960 2.9% 1980

3.8%, 1990 5.1% 1997 6.2%

, 2000 4)

[圖 - 1] 人口成長率 推移



資料: 統計廳(1996).

3)
$$= \left(\frac{\text{Birth Rate} - \text{Death Rate}}{\text{Total Population}} \right) \times 100$$

4) (1996).

· 家族機能 變化

가

傳統的 孝思想

老後所得

가 가 核家族化

家族福祉機能

가

1996 60

가 53.0%

「社會調查統計」

1988 35.1% 1994 53.0%

高學歷化 女性 經濟活動人口 가

· 勞動市場 柔軟化

5).

産

5)

1996

業構造調整

終身雇傭

가

硬直

勞動市場

非効率化

1995 7

雇傭保

險制度⁶⁾

「勤勞基準法」

7)

「派遣勤勞者

保護

法律」

‘平生

職場’

4 24

21

가

가

6) (Employment Insurance)

職業紹介・職業指導, 職業訓練案内

(1997).

7)

「

」

(31

)

2

('99. 3. 13)

, 1997

1998

所得對策

<表 - 2> 失業給與 種類

		1	3	5	10
		3	5	10	10
	30	60	90	120	150
	30 49	90	120	150	180
	50	120	150	180	210

資料: 勞動部.

(表 -2)⁸⁾, 大量化 構造化
가 政府 財政壓迫 가

8) 가 12 가 , 가 18
, 가
, 가
50% , 60 210
, 가

停年 加

退職一時金

65

9)

早期退職

加 補

完

國際的 競爭 深化

社會保險料

(表 -3).

法定 福祉費用

9)

2013

5

1

65

<表 - 3> 4 社會保險料 釀出率 負擔 主體別 國際比較

			가		
	(%) ¹⁾	0.5	0.6%	5.5%	5.5%
		100%	100%	100%	75%()
		-	-	-	25%()
	:	<	>		10%
	32%(:	:		(70%)
)	16.4%	:		* 33% 가
	:	:	:		.
	50%	50%			60%
	50%	50%			30%
	:				
	50%	1/3			
	:			12%	
	,	1/3			
	33%	50%	50%	50%	: 100%
	67%	50%	50%	50%	: 60%
					: 100%
					: 40%
		1/4,			
		1/4,			
		1/3,			
		1/8,			
		:	: 50%		
		:	,		
		:	:		
		100%	:		
		:	: 50%		

註: 1) 1995

資料: 韓國經營者總協會(1997), pp. 27 28

福祉費用 1988

國際競爭力

(表 - 4)¹⁰⁾.

가

役割調整

效率的 方法

<表 - 4> 生産職 勤勞者 時間當 報酬 社會保險料支出 其他
 勞動關聯 税金比率 國際比較 (製造業)

					가
1988	9.5	7.4	14.6	13.1	10.4
1989	11.1	7.4	14.6	13.3	12.2
1990	12.3	7.4	15.1	13.5	14.0
1991	14.8	7.4	16.6	13.7	14.6
1992	16.7	7.4	15.4	13.7	15.5
1993	16.7	7.4	14.4	13.7	15.5
1994	16.7	7.4	13.3	13.6	16.2
1995	16.7	7.4	13.2	14.4	16.7

資料: 韓國經營者總協會(1997), p. 24 < 2-5>.

가 勞動供給 增加,

10)

가

2. 年金制度的 要因

가. 年金制度 現況

1) 公的年金制度

國民年金 特殊職域年金制度가
가
가 最終報酬
가 所得比例制度 , 全
加入者 均等部分 가 가
混合制度
所得再分配 機能
收支上 赤字狀態
가

가) 國民年金

老齡 · 不具 · 廢疾 · 死亡

11)

11) 1988 가
 , 1998 10
 가

. 1996 가 742 6
 35.0% , 가 가
 76.5% 가 22.6% 가 가
 . 가 가 20 가
 가 가 60 65
 가 .
 1998 勤勞者 使用
 者 退職金轉換金 3.0% 9%
 , 都市自營業者 가
 (表 -5).

<表 - 5> 國民年金 釀出制度

	1/3
가 , 가	
가	

給付

, (表 -6). 가 , ,
 完全老齡年金, 減額老齡年金, 在職者 老
 齡年金, 早期老齡年金, 特例老齡年金 .

1996 財政收支 年金保險料收入 4 9,171
 , 基金運用收入 1 9,252 總收入 6 8,423 ,
 總支出 1 1,176 1 1,532

<表 - 6>

國民年金 給付制度 現況(1997)

	20 가 60	100% + 가
減 額	15 20 가 60	72.5 92.5% + 가
	20 가 60	50 90%
	20 가 55 60	75 95% + 가
	1988 1 1 5 45 60 가	25 70% + 가
		(4) 60 100% + 가
	1 가 , 15 가 가	40 60%+가
	15 가 1 - 60 -	가 (1 , 3)

資料: 『國民年金實務便覽』, 國民年金管理工團, 1996.

國民年金基金 25 284 .

1996

. 5 8 676 , 遺族年金 4
3 516 , 1 209 , 返還一時金
83 2 9,756 87.3%

1996 1
 9 7 , 17 4
 10 10 5 .

國民年金基金 資產運用 現況

1996
 公共部門 14 6,752 , 福祉部門 6,945 , 金融部門 6
 3,012 .
 1996 10.75%

) 特殊職域年金

公務員
 年金, 軍人年金, 私立學校教職員年金 12).

<表 - 7> 主要 特殊職域年金 保險料率

(: %)

		가		
	13	6.5	-	6.5
	13	6.5	4.0	2.5
		6.5	6.5	-

註: 報酬月額 基準.

一般職公務員(가), •

, • , 1960

12)

가 成熟

가 가 1/2 1997

13%

<表 - 8> 公務員年金 適用現況

(: , , %)

			1	
1985	696,951	9,078	418*	76.8
1990	843,262	25,396	588	33.2
1991	884,648	29,719	703	29.8
1992	922,098	34,333	859	26.9
1993	939,674	40,849	949	23.0
1994	948,151	48,016	1,035	19.7
1995	957,882	56,343	1,085	17.0
1996	971,303	63,693	1,110	15.2

註: 扶養比率= /

* 1988

資料: 『公務員年金統計』, 公務員年金管理公團, 1997.

1996 97

1980 1,789 가

1990 25,396 가 , 1996 63,693 가

가 (表 -8).

1985

76.8 1990 33.2

1996 15.2

連動

1996 1 111 .

私立學校教職員 年金 .

疾病・負傷・廢疾

가 經濟的 生活安定 福利向上

1975 . 國・公立學校 教職員

가 ,

, 3 가 . 가

50.0%, 30.8%, 19.2% , 가

50.0%, 50.0% (表 -7).

<表 - 9> 私立學校教職員年金 適用現況

(: , , %)

			1	
1985	123,821	233	272	531.4
1990	153,922	1,345	668	114.4
1991	159,295	1,705	782	93.4
1992	165,334	2,103	907	78.6
1993	171,095	2,674	993	63.9
1994	173,933	3,370	1,073	51.6
1995	181,128	3,950	1,144	45.9
1996	191,949	4,618	1,198	41.6

資料: 『私學年金統計年報』, 私立學校教員年金管理公團, 1997.

가 3%

가 1996 19 ,

1996 4,618

1
1996

120

20

가 扶

養比率 41.6

10

2) 民營年金制度

가) 個人年金制度

1994 6

가 退職金制度

가

老齡化 社會

, 長期貯蓄

個人年金 20 가 10

, 1995 45

(1949 12)가 가 50 55

, 50 5 55

, 終身年金型() 確

定年金型 , 5

銀行, 投資信託, 生命保險社, 損害保險社 農・水・畜協 郵便局()

稅制支援 制度
 가 40% 72
 所得控除 , 10
 非課稅 13),
 解約¹⁴⁾
 稅制支援 가
 誘引 가 , 提高
 가 가
 가

) 從業員退職積立保險 勤勞者退職積立信託

가
 類似企業年金 (表 -10
), 가 ,
 가

13) 가 가
 가 4%(7 2)

14) 가 가
 가 4%(7 2)

<表 - 10> 從業員退職積立保險 勤勞者退職積立信託 運營現況

	100%	100%
	100%	100%
가		
1%		

1998

‘三層保障’

係

策

補完的 關

誘引

公的年金制度 問題點

1) 國民年金制度

가

制度設計上

誤謬

釀出

給付

收支相等 原則

가

가

가 가

收益比 ¹⁵⁾		,	1	
6.54, 10	4.28, 20	2.41, 30	1.71, 40	1.41,
	45	1.31		. ¹⁶⁾

2033 17) 가
財政不安

未來世代가 2
가

赤字가

租稅負擔率 가

가

15) 가
現價 收入額(A)
支出額(V) 가
(1995), p.54.

16) (1995), pp. 53 63.

가 1.0
가 ,
가 1.0

17) 『 가, 1998 1 5 .

18)

40 가 55%
2025 16.25%

<表 - 11> 給與率 調整 保險料水準 財政推計(保健福祉部 改善案)
(: %)

2010	2015	2020	2025		
10.85	12.65	14.45	16.25	2080	1,885

註: 40 가 () 55%

資料: 保健福祉部.

資産運用收益率

透明性

信賴性

.19)

‘國民年金基金運用委員會’

18) (adequacy) 가

Fields(1995), pp. 3 4

19)

가

Mitchell and

20), 1994 「公共資金管理基金法」
가

1996 6,989

<表 -12> 公共部門 預託 年金基金 損失額 推定

(: , %)

			*(A)				(A × B)
						(B)	
1988	2,878	2,878	1,035	11.0	12.95	-1.95	20
1989	3,480	6,278	3,958	11.0	14.35	-3.35	133
1990	3,900	10,178	7,697	11.0	13.83	-2.83	218
1991	5,000	15,178	11,349	11.0	14.04	-3.04	345
1992	6,100	21,278	16,661	11.0	14.07	-3.07	511
1993	9,522	30,800	25,131	9.67	13.87	-4.20	1,056
1994	34,720	65,520	43,226	10.25	13.91	-3.66	1,582
1995	38,834	104,354	82,173	11.64	13.11	-1.47	1,208
1996	42,398	146,752	122,794	10.30	11.86	-1.56	1,916
							6,989

註: *平殘: (1 + 2 + . . . +12) / 12

資料: (1998) p. 10 < 3>

國民年金管理工團, 『國民年金統計年報』,

, 「1997」, 1997. 10.

20)

가

2) 特殊職域年金制度

가

가

一時金

1980

1990

가

50%

<表 - 13> 公務員年金 退職年金 選擇 推移

(: %)

1985	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
29.9	49.2	48.9	47.6	54.2	54.8	48.4	51.4

資料: 『公務員年金統計』, 公務員年金管理公團, 1997.

, 年金受給資格

20

가

40

가

. 1996

45

8.0%

50

19.8%

收支率²¹⁾

1993

21) (/) × 100

가 1983 가
 , 1995 (-1.8%) 反轉
 1996 5 6,805 .
 가
 改善 .

<表 - 14> 年齡別 公務員年金 受給權者 現況

(: , %)

	40 -	41 45	46 50	51 55	56 60	61+	
	866 (1.5)	3,776 (6.5)	6,896 (11.8)	11,739 (20.2)	21,804 (37.4)	13,167 (22.6)	58,248 (100.0)
1996.12. 31.	76 (0.1)	1,006 (1.7)	2,526 (4.3)	5,388 (9.3)	14,399 (24.7)	34,853 (59.9)	58,248 (100.0)

註:

資料: 『公務員年金統計』, 公務員年金管理公團, 1997.

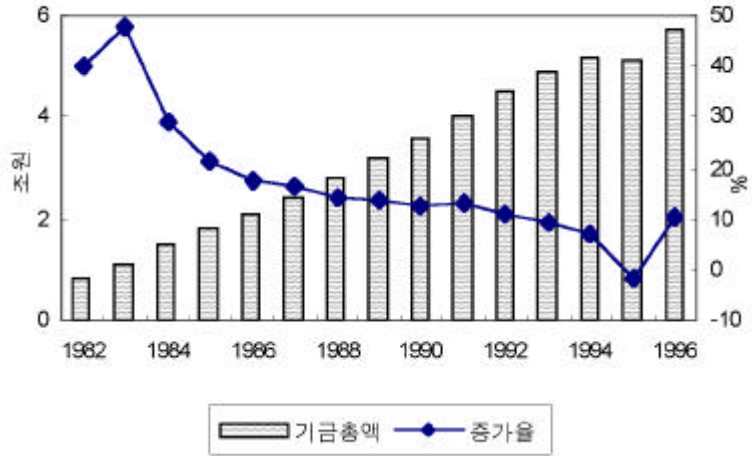
<表 - 15> 公務員年金 財政 推移

(:)

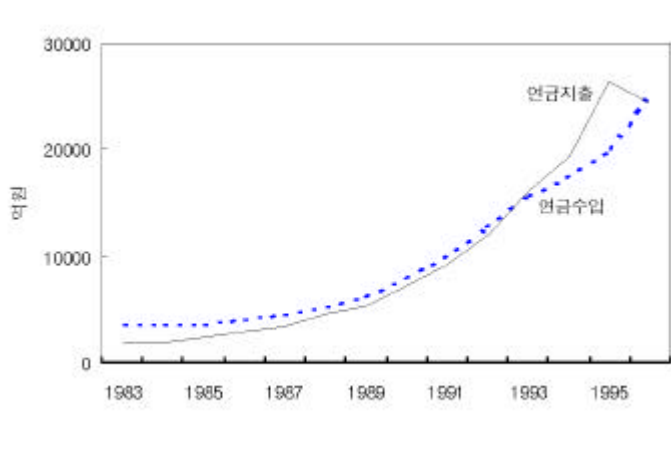
			(A)	(B)	
1985	3,713	2,337	1,396	1,762	17,830
1990	7,974	7,236	662	3,345	35,786
1991	9,849	9,177	632	4,018	40,436
1992	12,728	12,095	672	3,810	44,918
1993	15,749	16,147	-65	4,150	49,003
1994	17,520	19,351	-1,831	5,242	52,414
1995	19,988	26,373	-6,385	5,466	51,495
1996	24,759	24,321	438	4,871	56,805

資料: 『公務員年金統計』, 公務員年金管理公團, 1997.

[圖 -2] 公務員年金 基金 基金增加率 推移



[圖 -3] 公務員年金 收支差 推移



1996

基金倍率 10%

2 8

10 가

年金選擇率

40%

가

衡平性

가

移動 給付水準 衡平性, 社會的 連帶性

가

<表 -16> 私立學校教職員 年金 財政推移

(: , %)

1985	816	399	4,482	91	9.7
1990	1,710	1,133	11,636	228	10.5
1991	2,027	1,320	13,641	287	9.8
1992	2,771	1,821	16,142	339	10.3
1993	3,125	2,118	19,075	528	9.8
1994	3,481	3,244	21,701	607	12.5
1995	3,931	3,246	23,905	1,144	12.4
1996	5,129	3,445	27,586	1,733	11.6

資料: 『私學年金統計年報』, 私立學校教員年金管理公團, 1997.

年金改革 類型 經濟的 效果

가

政治·經濟·社會的 狀況 歷史的 經驗

1)

1. 年金改革 類型

가. 完全民營化

民營年金制度

義務加入
가

民間金融機關
.2)

1981

가 3)

가

, ,

1)

(1997)

2)

가

,

가

provident pension

가

가

3)

가 1981

5

1970

65

1990

13%

2025

20%

가

4)

가 .

多元化 (personal saving
account) 賦課方式 積立方式

舊制度 가 가 가 新制度

가 , 가

가 가 , 가

가 가 , 被傭者

가가 .

가 가 가 認

定公債(recognition bonds)⁵⁾ 國債 年

利 4% 利子

一般稅入計定 新制度 .

가

가 . ,

가

4) 가
(Unified Funded Pension Scheme)
(Falkingham and Johnson, 1992)

5) 가

12
가

60

賃金勤勞者

가

가

가

가

가

가

가

가 最低年金

失

業者, 無給家族従事者, 自營業者

가

가

公的扶助年金(public assistance pension)

가

監督

財

務健全性, 資産運用

가

公的年金 民營化 成果

가

勞動費用 減

少, 純賃金 增加, 退職制度 衡平性 提高

가

.6)

移行

가

統合 一貫

가

6) 法定退職年齡

가 65 ,

가 55

25

가

退職年齡

衡平性 가

經濟的 誘引策

가

가

가 好況

加入率

가 不況

가

7)

가

公私混合

(multipillar system)

가 古典的

가

傳統的 構造

微視的 制度調整

7)

, 10%

13%

3%

가

. Engen and Gale(1997), p.131.

1) 傳統的 構造 維持：公的年金 微視的 制度 調整

保

險料 引上, 給付 削減, 年金受給年齡 上向調整
가

社會保障 諮問委員會가

年金財政赤字

가 , 赤字

解消 削減 案 가 給付

가

가

가

供給 所得再分配 가 勞動
資本市場 活性化

2) 個人計定 設置 部分民營化

公的年金 二元化

가

OASDI 二層構造
(Personal Security Account)

所

得比例年金

民間年金

兩面性 가

가 가

가 가

가 가

確定醜外型 金融預託制度(money purchase pension plans) 保障範圍

‘最小料率’ 가

3) 適用除外 部分民營化
(Contracting-out)

가

(occupational pension)⁸⁾ (personal pension schemes)⁹⁾

8)

19

가 (SERPS; State Earning Related Pension Scheme) 가 . 1995 가
70%가 SERPS 가 , 30%가
가 .
適用除外 10) 1959
SGRPS(State Graduated Retirement Pension Scheme)가 11)
重複 가 .
SGRPS SGRPS
가 .
SGRPS SERPS(State Earning Related Pension Scheme) 個人年金
1988 SERPS ,
適格個人年金(Appropriate Personal Pension)
. .
職域年金 適格個人年金
65 質的要件
가 補償制度가 .12)

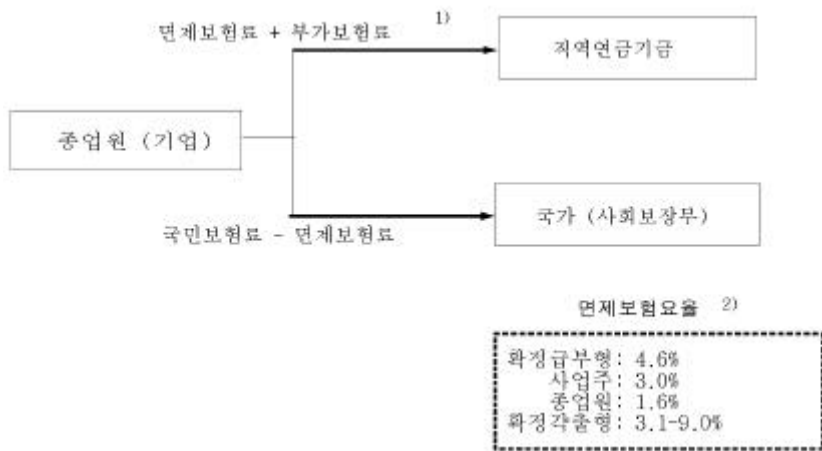
9) 1988 가 . ,
(endowment-linked scheme), (deposit administration
schemes), (unit-linked schemes) .
, , , , ()
) . (pension annuity)

10) (1997) .

11) SGRPS 가 가 .

12) 1997 4 .

[圖 -1] 適用除外 職域年金 加入者 保險料



註: 1) 가 GMP 가
 , 가

2) contracted-out rebate

1 再評價 1/80 ,
SERPS ,
 , 3% 物價連動
 . 가
國民保險料
SERPS . 免除保險料
'rebate' , 1997 4 4.6%(3.0%,
1.6%) (圖 -1).

GMP , 가

(最低保證釀出: guaranteed minimum level of contribution)

. 最低保證釀出 給付

(PR: Protected right) .

適格個人年金 가

가 가 가

還給 . 免除保險料率

, 4.8% 1997 4 4.6%

. 가 가 가

, 稅法上 所得控除

(圖 -2).

(: Personal Fund) .

COMPS(Contracted-out Money Purchase plans)¹³⁾

1986 가 .

確定給付型 職域年金 가

SERPS .

가 ,

1960 가 50%

, . 管

理 · 運用 .

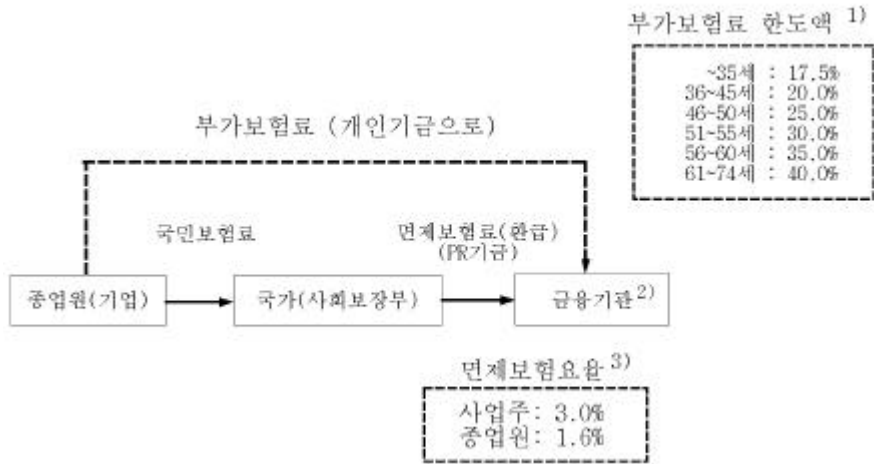
. 가

管理費 過多 .

13) COMPS (Guaranteed Minimum Contributions)

(GMCs; Guara-

[圖 -2] 適格個人年金 加入者 保險料



註: 1) 가

1996/ 97 82,200

2) , 友愛組合, , ,

3) 1997 4 3.4% 9.0% 年齡別 料率

資料: 原 智朗・岡崎康雄・上原弘史(1997), p. 37.

4) 代行 部分民營化

厚生年金

完全積立方式

適用除外

가

가

職域

代行 가
 公的年金
 가
 公法人
 相互扶助
 가 가 (가
 가) , 가 厚生年金
 가 基金 , 가
 가 兩者
 .14)
 本體 財政
 弱體化
 가 가 가 ,
 14) 가 1996 11 『
 』 代行部分 “
 ”
 , 自助努力 “ 個人計定
 釀外型 年金制度 ” .
 가
 基金財政
 安定化
 가

完全積立方式

前世代

代間 扶養'

가

, '世

0

가

前世代

過渡期 世代가 前世代

代行方式

가 二重

가

厚生年金

共濟組合

2. 年金制度 改革 經濟的 效果

가

理論

的 根據

가

가

民營化 效果 適切性

가

가

人口構造

가?

勞動力 供給

가?

,

가

資本蓄積

가?

經濟成長

가?

가

가. 人口構造

影響 最小化

가

(Pay-As-You-Go)

가

가

世代間

移轉

賦課方式

$$w_{t+1}N_{t0} = w_{t+1}N_t \quad (1)$$

$$N_{t1} = N_{t0} (1 + n) \quad (2)$$

, , , w_{t1} , N_{t0}
, N_{t1} , n

가 .

(1) (2)

가

가 . ,

가 0

,

가 0

가 0

가

가 .

完全積立方式(fully funded)

가

運用收益

. ,

$$B = C + I \quad (3)$$

, B 가 , C

가 , I

가 .

(3)

基金運用 收益率 技術進步率

가

가 , 가

· 勞動供給 增加

· 總勞動供給函數 實質賃金 函數

15),

$$N^s = N\left(\frac{W}{P}\right) \quad (5)$$

$$W = WG + PS \quad (6)$$

, WG , PS , P 가 .

(5) . ,

$$dN^s = N' d\left(\frac{W}{P}\right) = N' d\left(\frac{WG}{P}\right) + N' d\left(\frac{PS}{P}\right) \quad (7)$$

, N 0 .

15)

가 .

(7) 名目賃金 上昇

$$d\left(\frac{WG}{P}\right) = 0$$

가 .

가

가

, 勞動移動, 補償的 賃金調整, 富 再分配

.16)

가

가 .17)

賃金調整 가

18).

가

基金運用 收益率

가

가

早期退職 趨勢

, 65

.19)

Fields and Mitchell(1984)

16)

Gustman and Mitchell (1992)

17)

18)

가

가

가

19) Pesando(1992), p. 119.

60 總退職所得 現在價值 10% 가
 1 2 .
 10% 가 1 4 가
 . 1980
 가
 萎縮 .20)

總貯蓄 投資 增加

가 國民貯蓄 21).
 가 가
 . 가
 純效果 22), 一般的 民營年金
 年金資産 增加가 民間部門 貯蓄 增加
 23).

20) Michell(1944), p.23.

Quinn et al.(1990), Zabalza et al.(1980)

21)

, (pension promises) , ,
 가 . 가

22) Pesando(1992), p. 127.

가

가

Holzmann(1996), Edwards(1996) . Marfan and Bosworth(1994),

<表 -1>

3 3.6%

1995 96 28%

Marfan and Bosworth(1994)

順貯蓄²⁴⁾ 1982 85 GDP 2% 1985 2.6%,

1990 92 3.3% 가 가가

가

<表 - 1> 年金 民營化 以後 國民貯蓄率 推移

1970	12%
1982 1985	8.4%
1986 1989	13.6%
1990 1992	18%
1995 1996	28%

Holzmann(1996)

既得權

公共支出

1981 1988

23) Duskin(1992), p. 9.

24) = + - .

가陰, 1990 GDP 4%
1991 1995 2 3%

. Engen and Gale(1997)

가 가

. 政府 經濟改革 成功

資本市場 深化가

Edwards(1996) 25)

가

Kotlikoff(1996)

. Kotlikoff

가

外的 經濟條件 改善

가

Kotlikoff(1995)

가

26). ,

代替效果가 所得效果

가

가 , ,

가

25) 가

가

26) Kotlikoff(1995).

Kotlikoff(1996) Auerbach-Kotlikoff
 가 , ,
 . , 所得稅 性格,
 - , 移行稅(transition tax) ,
 가 가?
 Kotlikoff 가 累進的
 - 가 , 消費課稅 ,
 가 長期效用
 4.5% 가 . 10 6.5%,
 25 14%, 150 21% 가 .
 課稅-給付 가
 3.2% .27)
 移行費用 가 負債
 가 .
 . 經濟成長 影響
 가 .
 生産性 提高,

27) Kotlikoff(1996)
가

Devine(1997)
Engen and Gale(1997)

Auerbach-Kotlikoff

가

가

資本市場 效率

가
노동供給 增加 貯蓄率 上昇
가 . 巨視模型

.28)

28)

Giancarlo Klaus(1995)
가 가

가

가

年金制度改革 方向 年金制度間 調整

1. 年金制度改革 方向

가. 年金改革 政策的 基準

人口 老齡化 年金財政 危機
低成長, 生産可能人口 減
少 3

個人 自助努力
果實 가

가 , 低所得階層 가
情報 不充分, 近視眼的 展望
가 , 가
가 가
全面的 民營化

.1) 가 가

後所得 充分性, 年金制度 效率性

老後生活 安定性, 老
가

.2)

1) (World Bank, 1994:5~6)

, -
-
(
)
가

2) (World Bank, 1994:9 10)

가
가
가 (evasion)
가
가
가

所得代替率

가

國家・企業・個人 3

3 適正 分擔構造 가

가 最適水準

重複加入

適正所得代替率

老後所得保障

多層的 保障體系

가

最低所得代替率 適正所得代替

率

55

55

가

實態生計費

理論生計費

가 가

2

가

『都市家計調査』

『勤勞者生計費調査』가

가 가

韓國勞總

『都市勤勞者生計費』

民主勞總

『標準生計費』, 韓國勞動研究院

『最低賃金審議	生計費 研究』		
가	가	55	
가	가	55	
	消費支出 構造	가	
	全無		
	가		
	가	修正	
55	가		『
	』		
	結婚,	,	
消費支出 項目	交通・通信費	55	
			50%
	住居費		가
	70%		保健醫療費
			醫療保險統計
55	1	1996	55
			34%
			19,191
	2 가	38,382	가
55			租稅額, 社會保障額,
其他 非消費 項目	非消費支出		
가	1996		1 가
39 ,	가	72 4	

住居費 70%

34% 控除

貯蓄 租稅公課金

가 55

1 가 728 가 1,145

(50 54

) 1 가 46%

2 가 44%

55 標準所得代替率 45%

가

<表 - 2> 標準生計費

(:)

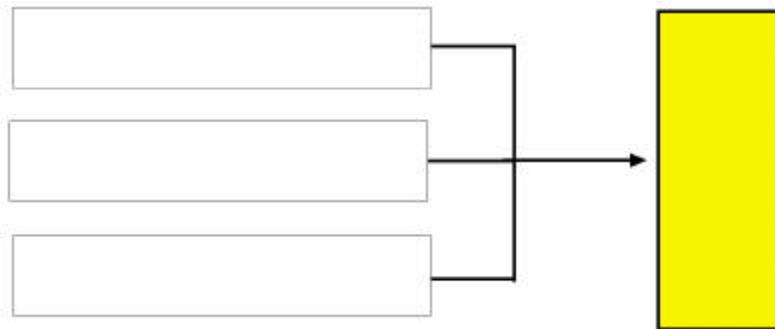
	1	55 1	2	55 2
가	636,771	580,853	1,045,085	958,480
	154,205	154,205	259,441	259,441
	130,096	91,067	217,207	152,045
	49,820	49,820	65,385	65,385
	31,759	31,759	68,126	68,126
	53,759	53,759	121,302	121,302
	34,000	34,000	78,140	78,140
	10,000	10,000	10,000	10,000
	49,674	32,785	63,067	41,624
	123,458	123,458	162,417	162,417
	147,338	147,338	186,398	186,398
102,861	102,861	102,861	102,861	
44,477	44,477	83,537	83,537	
784,189	728,191	1,231,483	1,144,878	

資料: 韓國勞動組合總聯盟(1997)

2. 公私年金制度間 調整方案

가 . 基
礎的 保障 ,
整合性
改革 - 所得比例年金 適用除外>
<國民年金 二元化 - 特殊職域年金

[圖 - 1] 年金改革 概念圖



가. 1 : 國民年金制度 二元化

基礎年金制度 所得比例年金制度

二分化

3)

長點 가

適用除外

彈力的

가

, 統一

財政方式

積立方式

4)

(表 -3)

3) (World Bank, 1994)

가

(flat)

가

가

가

4)

가

가

40%

가

가

가

가

2 3%p

가 2 3%p

. World Bank(1994), p. 88

<表 - 3> 基礎年金 國際比較

가			65 , 60 10 65
		3	65 , 40
가			67 , 40 . 70
		() 1.55%, 가 2.4 4.9%	65 , 5 . 60 64
		(가)	1 0.5%
		가 2.5 6%,	67 3 . 40 가
		14.55%, 分	65 50 가
		7.8%, 14.2%. 가	67 , 가 40
	()		60 65 10 50 5
가		1%, 5.83% 가	65 , 가 40
		2 10 %() , 3 10.2%	65 , 60 , 가 90% 가
		1 , 2 3 1/3	25 가 , 65

가

가 勤勞意慾 低下, 無賃乘車者 問題,

가 貯蓄機能 所得再分配 機能 가

25% 45%

平均所得者

25%

20%

가

承繼

5).

所得比例年金

가

가

個人所得

脫漏

가

2 : 特殊職域年金 改革

2

가

年金 基本原理

5)

가

가

가 가
가 가
가 免除 整合性

3 : 所得比例年金 適用除外

<表 -4>
制度的 重複

「社會保障
法」 가 ,
相殺方式(offset plan)
(excess plan) , 超過方式
(set-up plan) 가 .⁶⁾
가

6)

<表 - 4> 各國 企業年金 公的年金 代替 經緯

	1930 , 가 ,
	1960 () 가
	가
	가 가
	가 () , () 1978 가 1970
	1965

: 村上 清(1997), p. 119

가 .

代行方式 . , 1965

調整年金 ,

가 特別法人 厚生年金基金

附加給與 .

退職積立金

3%

가 가

相互補完性

效率的

가

) 가

3%

3. 退職一時金制度 退職年金制度 移行

가. 退職一時金制度 現況 問題點

7).

7)

(1992)

1) 現況

「勤勞基準法」

28 , 1

1 30 平均賃金

1961 30 , 1975 16

, 1987 10 , 1989

5

1980 「 」

4 「 」, 5 「 」

」

起算日 入社日 ,

가 3

金融 可變性

企業 倒産

支給保障 不安定性

8).

2) 問題點

失業保險 老後生活保障 手段

8)

가

長期勤續 勤勞者가 가

人力構造

財源調達

, 退職金受給權

가

社内 留保 運營資金

가

1997 8

가

不合致

移行方案

退職一時金制度

가 所有權

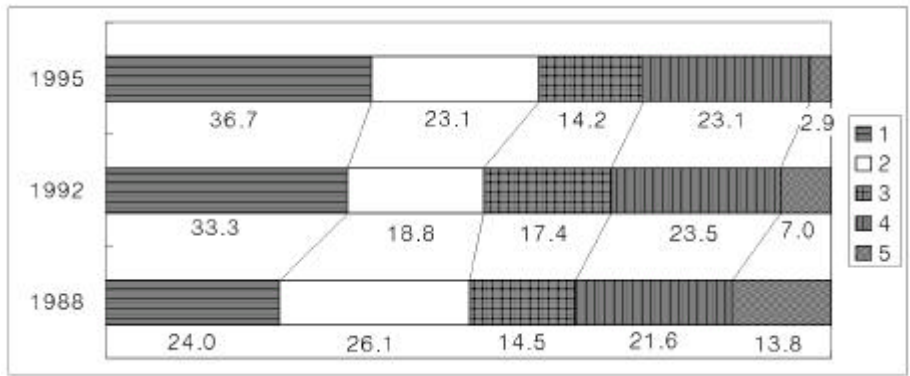
가

後佛

賃金

税制惠澤

[圖 - 2] 退職年金 移行類型別 推移



註: 1. ()
 2. ()
 3. ()
 4. ()
 5. ()

資料: 生命保險文化センタ -, 「平成7年度企業の福利厚生制度に関する調査」
 (1995年5 7月 調査).

가 가
 () 全面移行, 部分
 移行, 別途新設

[圖 - 2]
 가 1988 1995

가

退職給與充當金

9).

社内積立 社外積立

10).

「所得稅法」

「所得稅法 施行令」

「法人稅法」

「法人稅法 施行令」

.

10

1

” ”

100

50

”

必要經費

11).

非課稅

租稅減免

9)

가

()

10)

11)

가가

가

가

가

가 政策上 不調和가

退職年金保險制度 移行 效果

1) 從業員側 效果

가 가

豫測 不可能

가

가

가

가

, 退職年金

保險 財源 社外

分離計定

危險負擔

가

가

가

2) 企業側

效果

企業 資金管理

가

가

資金需要

不確實性

가

가

資金計劃 樹立

保險數理

資金調達

運轉資金

(PSL)

雇傭安定

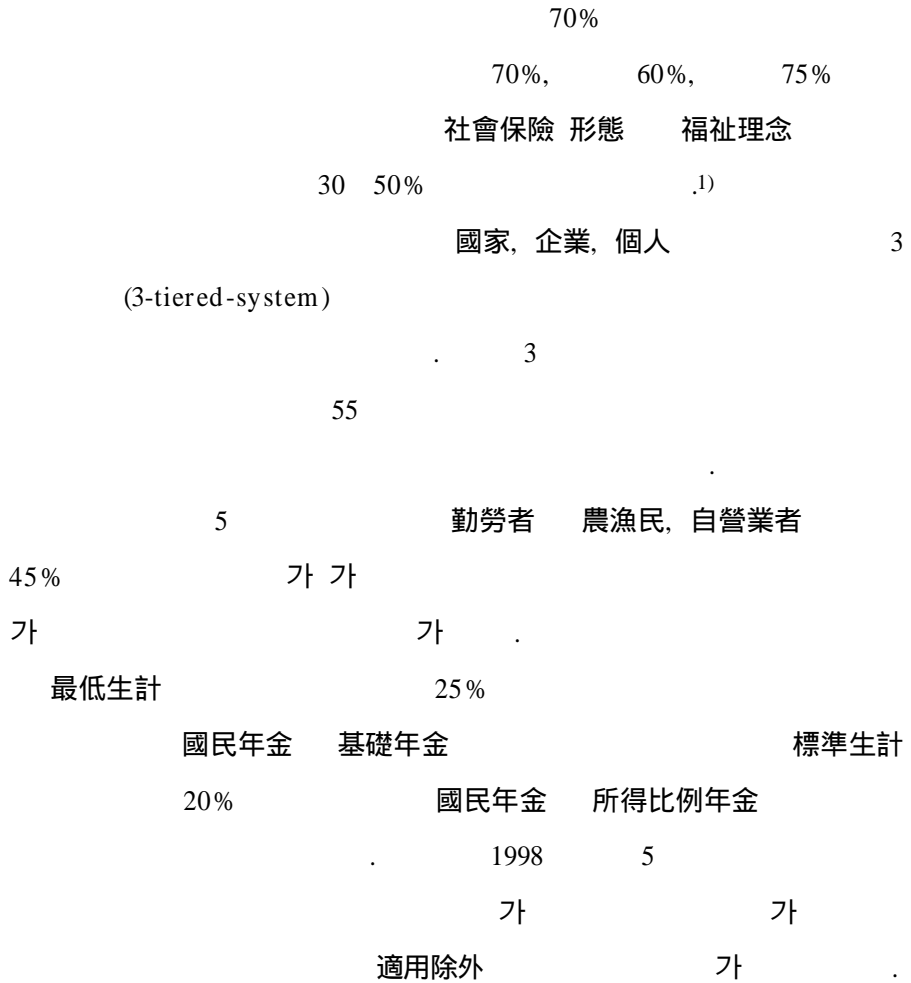
人才確保

勞使關係

年金制度 改革

公私年金規模 長期展望

1.



1) 1996 30.4%, 51.0%, 55.8%, 34.2%, 36.5%, 42.9%

[圖 - 1] 年金制度 再構成



註: * 가

肯定的 效果

所得再分配

가

制度的 重複

45%

가

醫療保險 ·

雇傭保險 · 産災保險

가

가

60%

가
 가 15% 개인저축 개인년
 금 가
 가
 가

2. 展望 前提事項

총수입 部門, 총지출 部門 收支差
 이취수입 部門
 人口構造, 經濟活動參加率, 常備勤勞者 規模
 別 事業體勤勞者 比率, 勞動市場 脫退率,

가 가 1998~2050

가 經濟指標 가

가. 加入者 數 假定

가 將來人口가 ,
 가 加入率

$$\text{가} = 20 \times \text{가} \times (1 - \text{가}) \times \text{가}$$

推計期間 2030 統計廳 『將來人口推計』
 0.02% 가 .
 『中長期 人力需給 展望』 가 2010 韓國勞動研究院
 , 2015
 가 .
 經濟活動參加率 1980
 青年層 女性 가
 가 가 2000
 가 77.8%, 50.4% ,
 2010 80.2%, 55.2% 가 .
 가 20~59
 停年退職年齡 55
 20~54 가 .
 가 1988 가
 1992 5~9 , 1995
 1998 都市自營業者 .

가

가

支援政策

가

가

2030

5

가 가

가

<表 - 3> 就業者 對比 事業體 規模別 勤勞者(1995)

(: , %)

5	6,236	30.6
100	2,856	14.0
300	1,696	8.3
500	1,297	6.4
1,000	804	3.9

資料: 勞動部, 『事業體勞動實態調查報告書』, 1995.

將來賃金

假定

가 가

賃金水準

勞動市場 變化趨勢

性別 賃金格差가

, 年齡階層別 賃金格差

가

1996

賃金構造 調整

賃金上昇率

1996

100

25 29

가

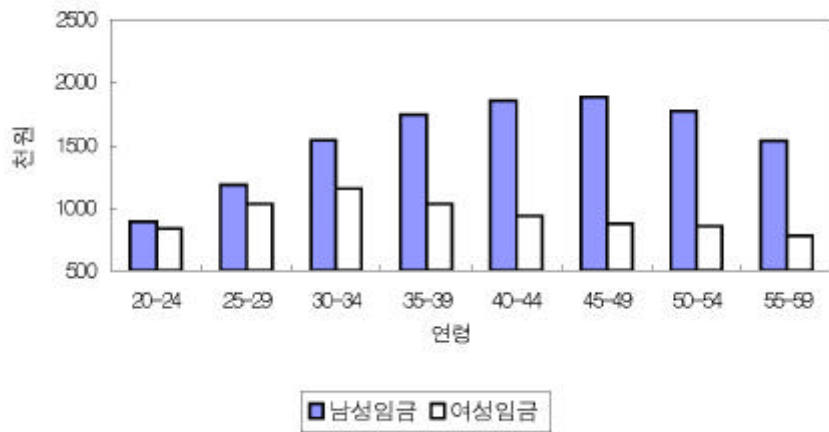
30 34

가

가

退出 低熟練 補助業務 長期勤續 調整指數 不完全就業

[圖 - 2] 性別・年齡階層別 賃金水準(1996)



1996

45 49 100

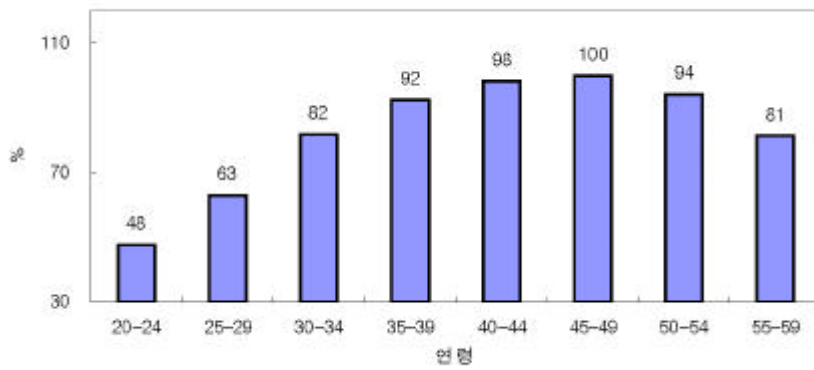
[圖 -3]

最高賃金 最低賃金 가 1971 2.7

1990 2.0 2.1 . 1988

50代 40代
 勞動市場 柔軟性 提高
 가

[圖 - 3] 男性 年齡階層別 賃金格差(1996)



가 43%,
 가 80%
 2030 産業構造調整
 가
 賃金上昇率 2009 6.0%, 2010~2019 5.0%, 2020~2029
 4.0%, 2030 3.0% 가

<表 - 4> 年齡階層別 將來賃金 推計

(:)

	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59
2000	1,164	1,522	1,967	2,220	2,358	2,399	2,109	1,922
2005	1,605	2,060	2,646	2,978	3,156	3,211	2,774	2,513
2010	2,192	2,763	3,525	3,958	4,183	4,256	3,649	3,253
2015	2,882	3,567	4,522	5,065	5,339	5,432	4,576	4,055
2020	3,754	4,561	5,745	6,419	6,749	6,867	5,740	5,007
2025	4,706	5,613	7,024	7,829	8,211	8,355	6,863	5,950
2030	5,843	6,842	8,507	9,458	9,894	10,067	8,206	7,002
2035	6,773	7,931	9,861	10,964	11,470	11,670	9,513	8,118
2040	7,852	9,195	11,432	12,710	13,297	13,529	11,029	9,411
2045	8,669	10,152	12,622	14,033	14,681	14,976	12,177	10,390
2050	9,571	11,208	13,936	15,494	16,208	16,492	13,444	11,471

	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59
2000	1,071	1,327	1,507	1,327	1,172	1,140	981	982
2005	1,476	1,797	2,027	1,828	1,594	1,546	1,293	1,288
2010	2,016	2,409	2,700	2,496	2,148	2,079	1,706	1,672
2015	2,652	3,110	3,464	3,281	2,787	2,691	2,146	2,091
2020	3,454	3,977	4,401	4,272	3,582	3,449	2,700	2,589
2025	4,329	4,895	5,381	5,353	4,430	4,255	3,239	3,086
2030	5,375	5,966	6,516	6,643	5,427	5,200	3,884	3,643
2035	6,231	6,916	7,554	7,701	6,291	6,028	4,502	4,223
2040	7,224	8,018	8,757	8,927	7,293	6,988	5,220	4,895
2045	7,976	8,852	9,668	9,856	8,052	7,715	5,763	5,405
2050	8,806	9,773	10,675	10,882	8,890	8,518	6,363	5,967

・ 釀出水準 假定

保険料 釀出水準 附課所得基準

標準報酬月額 3%

1993	6%	1998	9%
		(gross wage)	
時間外勤務手當,		, 食費	現物給與費
10%	가	90%	

法定退職金制度

1) 1998	8.3%	(12
		5.3%	3%가
			5.3%
가	가		退職金 累進率

.3)

社外

3)

가 가 .

終身 平

均壽命 79 가 60

20 가 .

20~54 가

20 가 55

74 20 現

在價值 割引 가 .

가 20 가

가 遺族年金 가 .4)

返還一時金 制度 가 가

가 20

가 .

3. 模型 構造

社會・經濟的 基礎資料 基本模型 가 ,

4) 55 59 , 75 79

가 1 , 가

(가 × ×)
 積立基金 利殖收入 前期
 當期

1) 保險料收入

가
 가
 가 가

$$[M]_{t,a,s} = [POP]_{t,a,s} \times [PAR]_{t,a,s} \times [I-(UEM)_{t,a,s}] \times [MR]_{1998} \times (I+x)^{t-1998}$$

$$[M]_t = \sum_{a=20}^{ra} [M]_{t,a,s}$$

, [M]_{t,a,s} : t · a 가

[POP]_{t,a,s} : t · a

[PAR]_{t,a,s} : t · a 가

[UEM]_{t,a,s} : t · a

[M]_t : t 가

[MR]₁₉₉₈ : 1998 가

x: 가 가

ra: 55~59 , 50~54

t : t=1998, 1999, . . . ,2050

가 가

가

$$[Wm]_{t,a} = [Wm]_{1996,a} \times (I+irw)^{t-1996} \times (I+awda)^{t-1996}$$

$$[Wf]_{t,a} = [Wm]_{t,a} \times wds \times (I+awds)^{t-1996}$$

$$, [Wm]_{t,a} : t \quad \cdot a$$

$$[Wf]_{t,a} : t \quad \cdot a$$

irw :

awda :

wds :

awds :

1998 t 2030 , $a = 20 \quad 24$: *awda*=0.0099, *wds*=0.920, *awds*=0

$a = 25 \quad 29$: *awda*=0.0046, *wds*=0.872, *awds*=0

$a = 30 \quad 34$: *awda*=0.0050, *wds*=0.766, *awds*=0

$a = 35 \quad 39$: *awda*=0.0048, *wds*=0.588, *awds*=0.0054

$a = 40 \quad 44$: *awda*=0.0034, *wds*=0.492, *awds*=0.0033

$a = 45 \quad 49$: *awda*=0.0000, *wds*=0.471, *awds*=0.0028

$a = 50 \quad 54$: *awda*=-0.0047, *wds*=0.464, *awds*=0.0006

t 2031 , *awda*=*wds*=*awds*=0

가

$$[CON]_{t,a,s} = [M]_{t,a,s} \times [W]_{t,a,s} \times [PRE]_t$$

$$[CON]_t = \sum_{a=20}^{ra} \sum_{24,s} [CON]_t$$

$$, [CON]_{t,a,s} : t \quad \cdot a$$

$$[W]_{t,a,s} : t \quad \cdot a$$

$$[CON]_t : t$$

$$[PRE]_t :$$

ra: 55~59 , 50~54

過去勤務債務 償還額

$$[PSL]_{t,a} = [M]_{t,a} - [M]_{t-1,a} \times \sum_{t-TEN}^{t-1} [W]_{t,a} \times [PRE]_t \times \frac{1}{10}$$

$$[PSL]_t = \sum_{t-9}^t \sum_{a=20}^{54} [PSL]_{t,a}$$

, $[PSL]_{t,a} : t \cdot a$

TEN : 가

$[PSL]_t :$

2) 積立金 利殖收入

投資收益率

$$[BAL]_t = [TR]_t - [TE]_t$$

$$[AF]_t = [AF]_{t-1} + [BAL]_t$$

$$[IAF]_t = [AF]_{t-1} \times [intrr]_t$$

, $[BAL]_t :$

$[TR]_t :$

$[TE]_t :$

$[AF]_t :$

$[intrr]_t :$

$[IAF]_t :$

3) 總收入

()

$$[TR]_t = [CON]_t + [IAF]_t + [PSL]_t$$

總支出 部門

一時金 支給額, 年金 支給額 事業費 支出額

1

1

1) 一時金 支給額

가 20 20 44

(退職 死亡)

$$[OUT]_{t,a} = [M]_{t,a} \times OUTR$$

$$[RD]_t = \sum_{a=20}^{40-44} [OUT]_{t,a}$$

, $[OUT]_{t,a} : t \cdot a$

$OUTR :$

$[RD]_t :$

1

가

$$[PI]_{t,r} = \sum_{tt = t - (r - 20)}^{t - 1, 50} 54 \left[[CON]_{tt,a} + [PSL]_{tt,a} \right] \times (1 + intr(tt))$$

, $[PI]_{t,r} : t \cdot r \quad 1$

$intr(tt) :$

$r \quad , \quad tt \quad 가 \quad , \quad t$

$$[PII]_t = \sum_{r=20}^{44} [PI]_{t,r} \times [OUT]_{t,r}$$

, $[PII]_t :$

2) 年金 支給額

10 , 20

가 35 45 가 가

60 , 55 가

55 60 가

新規年金受給者數

가 가

$$[NNP]_{t,r} = \sum_{tt = t - (ra - t), r = 35, 45}^t [OUT]_{tt,r}$$

$$[NP]_t = \sum_{ra=60,55}^{79,74} [NNP]_{t,r}$$

, $[NNP]_{t,r} : t \cdot r$

$[NP]_t :$

$r:$ 35 , 45

$ra:$ 60 79 , 55 74

tt , t

給付算式

割引利子

率 1

$$[PB]_{t,r} = [PI]_{t,r} \times [PV]_t$$

, $[PB]_{t,r} : t \cdot r$ 1

$[PV]_t :$ 가

$$[PI2]_t = \sum_{r=45}^{54} [PB]_{t,r} \times [NNP]_{t,r}$$

, $[PI2]_t :$

3) 事業費 支出額

가

團體退職保險 事業費率

0.8% 가

管理運營費 比重 1.5% 가 .

$$[ADC]_t = [CON]_t \times k$$

, $[ADC]_t$:

k : 0.015, 0.008

4) 總支出

$$[TE]_t = [PI1]_t + [PI2]_t + [ADC]_t$$

, $[TE]_t$:

4. 公私年金規模 長期展望

가. 基礎國民年金

1) 加入者 受給者 數 推移

事業場加入者 地域加入者 任意加入者 가

가 가 가

2038 가 . 2038

1,737

1 7

, 經濟活動 가 停滯 가

가 가 2010

8 가 2030 730

1998 가 提高 가 2000
 2 2040 1 가
 10 가 가 60
 가 1998
 가 2000 26 2015
 137 가 2035 312
 310
 가 2005 가
 2010 34 가
 2040 350
 基礎國民年金 受給者數 2010 128 , 2030
 570 , 2050 687

<表 - 5> 基礎國民年金 加入者 受給者 數 推移

(:)

	가			가		
	가	,		가	,	
2000	7,162	2,374	9,536	262	0	262
2005	7,697	3,092	10,789	474	61	534
2010	8,040	4,288	12,327	941	337	1,278
2015	8,089	5,260	13,349	1,366	590	1,956
2020	7,908	6,664	14,571	2,082	1,404	3,487
2025	7,643	7,806	15,449	2,370	1,662	4,033
2030	7,342	9,428	16,770	3,001	2,697	5,698
2035	7,334	9,418	16,752	3,120	2,912	6,031
2040	7,327	10,037	17,364	3,144	3,485	6,629
2045	7,320	10,027	17,347	3,177	3,632	6,809
2050	7,313	10,018	17,331	3,175	3,699	6,874

2) 收入 支出 推移

25% 所得代替率 基金 財政安定

1998 2009

6.5%, 2010 2019 7.5%, 2020 2029 8.5%, 2030

9.5%

<表 - 6> 最低生活 基礎國民年金 保險料率

1998 2009	2010 2019	2020 2029	2030 2050
6.5%	7.5%	8.5%	9.5%

全加入者 平均所得水準

가 25%

$$= 4.1 \times (가) \times (/ 40)$$

가 ,

가

가

事業場 加入者 2000 8 5

2030 54 , 2050 88

가 2000 1 9

2030 42 , 2050 74 가 .
가 2000 1 3
가 2030 51 ,
2050 87 .
2010 2 8 2050 107
가 .
2000 11 2 2030
126 가 , 2050 188
2010 11 2030 100 가 2050
197 . 基礎國民年金
2010 200 가 2041 914
2050 874 .5)

5)

. 1998 가
60 477 .
2020 1 2030
1,396 . 60
25% 20 59
가
가 가 60
가 () 가
1998 52.4% 2020
72.3% 2025 80.3% , 2030 83.3%
가
13.5% 1998 2019
, 2020 2030
18.0% . 2030
가 25%

<表 - 7> 最低生活保障時 基礎國民年金 財政推計

(: , %)

가						
2000	8.5	2.3	9.9	1.3	1.5	34.2
2010	19.6	14.0	31.8	7.8	8.1	223.7
2020	35.1	25.0	58.5	24.7	25.2	533.9
2030	53.6	31.5	84.1	50.9	51.7	818.7
2040	71.9	27.3	99.1	70.9	72.0	936.4
2050	87.5	26.2	114.0	87.0	88.3	899.9
가 ()						
2000	1.9	2.3	3.3	0	0.03	29.0
2010	6.7	14.0	18.9	2.8	2.9	216.1
2020	18.5	25.3	41.9	17.3	17.5	525.0
2030	42.3	31.5	72.7	47.8	48.4	810.6
2040	60.5	27.3	87.6	82.9	83.8	913.1
2050	73.6	26.2	100.1	107.3	108.4	865.8
가						
2000	10.3	1.4	11.2	1.3	1.5	25.7
2010	26.4	12.2	37.1	10.6	11.0	200.0
2020	53.6	23.4	75.6	42.0	42.8	500.7
2030	95.9	30.4	125.6	98.6	100.1	786.3
2040	132.4	27.2	159.5	153.8	155.8	909.3
2050	161.1	26.5	187.8	194.3	196.7	874.2

· 所得比例國民年金

1) 加入者 受給者 數 推移

가 가

最終給與對比 45%

25%

20% 가

가

가

가

1998

移動

2030

가

가

가

가

가

가

가

1998

가

30%가

移行

1998

가

472

가

2010

399

, 2029

5

2030

가

가

가

,

가

加入率

提高

가

2038

1

가

가

所得比例國民年金 가

2000

706

2030

943

가

2050

1

2000

16

2005

가

가

2030

313

가

2050

394

가

<表 - 8> 所得比例國民年金 加入者 受給者 數 推移

(:)

	가			가		
	가	,		가	,	
2000	4,690	2,374	7,064	155	0	155
2005	4,489	3,092	7,581	283	61	344
2010	3,991	4,288	8,279	596	337	933
2015	3,169	5,260	8,429	685	590	1,275
2020	2,098	6,664	8,762	689	1,404	2,093
2025	860	7,806	8,666	571	1,662	2,234
2030	0	9,428	9,428	435	2,697	3,132
2035	0	9,418	9,418	345	2,912	3,256
2040	0	10,037	10,037	273	3,485	3,758
2045	0	10,027	10,027	239	3,632	3,871
2050	0	10,018	10,018	236	3,699	3,935

2) 收入 支出 推移

20%

1998 2009 5.3%, 2010 2019
6.3%, 2020 7.3%

<表 - 9> 標準生活 所得比例國民年金 保險料

1998 2009	2010 2019	2020 2029	2030 2050
5.3%	6.3%	7.3%	7.3%

가 全加入期間 平均所得水準
가

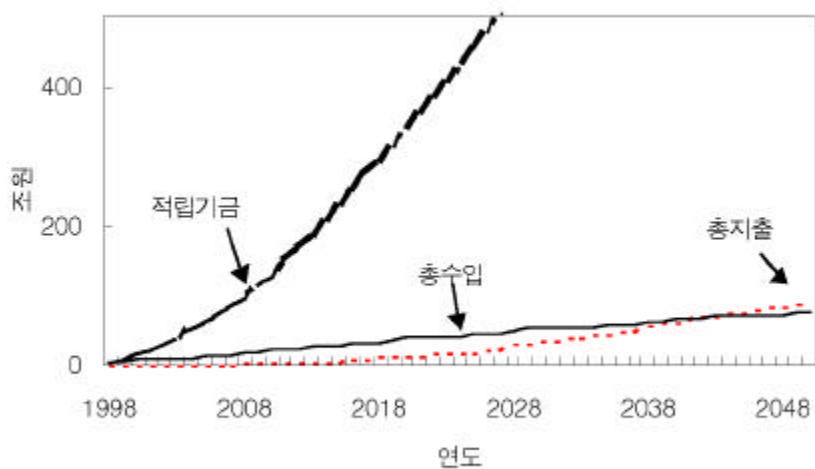
20%

<表 - 10> 標準生活保障時 所得比例國民年金 財政推計

(: , %)

가						
2000	4.5	2.3	6.0	0.2	0.3	31.4
2010	8.2	14.0	20.4	2.0	2.2	218.2
2020	8.0	25.0	31.4	4.3	4.4	527.7
2030	0	31.5	30.4	4.3	4.3	812.5
2040	0	27.3	27.2	3.8	3.8	932.7
2050	0	26.2	26.5	4.1	4.1	896.5
가 ()						
2000	1.5	2.3	3.0	0	0.02	28.6
2010	5.7	14.0	17.8	1.2	1.3	216.6
2020	15.9	25.0	39.3	9.4	9.7	530.3
2030	32.5	30.4	61.5	30.1	30.6	793.6
2040	46.5	27.3	73.6	58.8	59.5	923.4
2050	56.5	26.2	83.0	86.3	87.2	870.0
가						
2000	6.0	0.9	6.6	0.2	0.3	16.7
2010	13.8	7.9	20.8	3.3	3.5	130.4
2020	23.9	15.7	38.6	13.7	14.0	339.2
2030	32.5	20.8	51.9	34.4	34.9	539.4
2040	46.5	19.5	65.8	62.6	63.3	652.4
2050	56.5	17.8	74.7	90.5	91.3	575.9

[圖 - 6] 所得比例國民年金 財政 推移



· 退職年金

1) 加入者 受給者 數 推移

가		1998		標準生計	
가		가		가	
(1998) 가		가		30%	
가		가		2030	
가 가		가		가	
1998 가		207		2010	
377	, 2020	524	가	, 2030	710
		. 2030		가 가	

		가	가		620
				過去勤務債務償還	10 分割
	2008		가		
		2007	17	가	가
	2008		10		
13					가
	2008	2	8		가
2022	100		2030	248	
	2043		421		
		410			
				2018	
가		2020	16	2030	125
	가	2050	434		

<表 - 11> 退職年金 加入者 受給者 數 推移

(:)

	가			
1998	2,074	93	0	0
1999	2,191	99	0	0
2000	2,319	106	0	0
2005	3,014	145	0	0
2010	3,766	78	100	0
2015	4,451	91	385	0
2020	5,241	105	847	161
2025	6,130	123	1,601	593
2030	7,098	144	2,483	1,245
2035	6,305	128	3,287	2,123
2040	6,299	128	4,177	2,969
2045	6,293	128	4,192	3,636
2050	6,287	128	4,108	4,343

2) 收入 支出 推移

5 가 20%
 가 15% 1998
 2009 14%, 2010 2019 15%, 2020 17%

보험料率 가
 1998 5 加入率 上昇,
 賃金引上 2030 가
 107 保険料率 調整 賃金引上
 要因 가 2040 127 , 2050

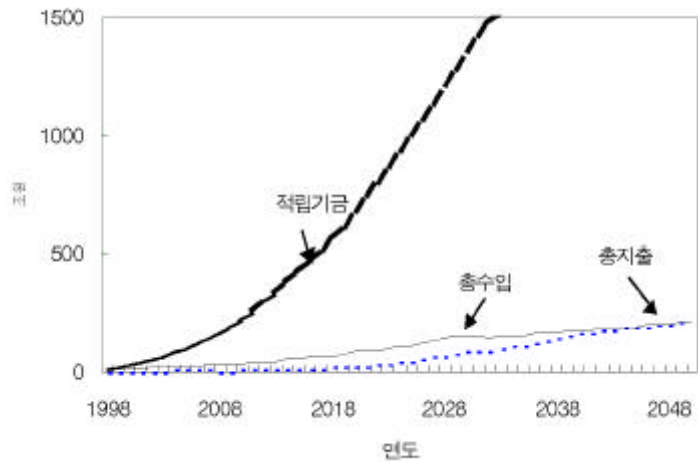
155			.			
	1998	5		가		가
2030		10				가
	過去勤務債務償還額	2039		.	1998	
	4	7				
	가 2030	6	6			
	2040		.			
	支出側面			가	2007	
11	가					4
		가	가	元利金	合計	가
	2030	20	, 2050	29		.
	年金支出 推移		가	2008	1,702	
					가	2020
	15		, 2030	68	, 2050	181
		基金積立額 推移		2000	30	
	2030	1,351	가		2050	
1,803			.			

<表 - 12> 退職年金 財政推計(過去勤務債務償還)

(:)

1998	5.2	4.7	0	10.0	0.4	0	0.08	0.5	9.5
1999	5.9	5.0	0.8	10.9	0.9	0	0.09	1.0	19.3
2000	6.6	5.3	1.5	12.7	1.5	0	0.1	1.6	30.4
2005	11.6	7.4	6.1	24.7	7.2	0	0.2	7.3	104.4
2010	20.7	4.8	13.5	37.1	4.5	0.8	0.2	5.5	224.5
2015	31.3	5.1	22.5	56.4	7.2	4.9	0.3	12.4	418.3
2020	52.9	5.3	30.8	86.4	9.8	15.0	0.5	25.3	677.3
2025	75.5	6.0	37.3	116.2	14.1	35.0	0.7	49.8	1,000.2
2030	106.6	6.6	51.2	161.5	20.3	67.6	0.9	88.9	1,351.4
2035	109.7	3.5	47.3	159.0	19.8	94.1	0.9	114.9	1,619.9
2040	127.1	0	52.4	178.8	22.8	139.6	1.0	163.4	1,760.5
2045	140.2	0	54.0	194.0	25.9	162.6	1.1	189.6	1,803.0
2050	154.6	0	54.1	208.8	29.0	180.8	1.2	211.1	1,802.7

[圖 - 7] 退職年金 財政推移



1998

原論的 次元 가

가

가

가

<表 -13>

1998

5

1998

가

가 20

가

2018

2018

一時金 支出

가

積立基金

2035

<表 - 13> 退職年金 財政推計(過去勤務債務償還)

(:)

1998	5.3	0	5.3	0.2	0	0.04	0.3	5.0
1999	5.9	0.4	5.9	0.5	0	0.05	0.6	10.3
2000	6.6	0.8	7.0	0.9	0	0.05	1.0	16.3
2005	11.6	3.4	14.8	4.3	0	0.09	4.3	59.3
2010	20.7	7.4	27.3	13.2	0	0.2	13.4	120.0
2015	31.3	10.6	41.1	27.5	0	0.3	27.7	189.3
2020	52.9	16.3	66.9	8.4	2.0	0.4	10.7	381.8
2025	75.5	25.7	98.4	12.5	9.7	0.6	22.8	718.7
2030	106.6	42.8	145.6	18.5	26.8	0.9	46.2	1,169.4
2035	116.0	46.0	159.4	20.2	52.5	0.9	73.6	1,619.9
2040	134.4	58.1	190.2	23.9	91.3	1.1	116.3	2,011.2
2045	148.2	67.9	214.4	27.4	135.4	1.2	163.9	2,314.2
2050	163.5	73.5	236.3	30.7	188.6	1.3	220.6	2,467.1

公私年金 長期的推移 總括

가 適

正 所得代替率

公

私年金間 役割

概觀

2020 57%:43%

가 2021 2030

53%:47%

2031

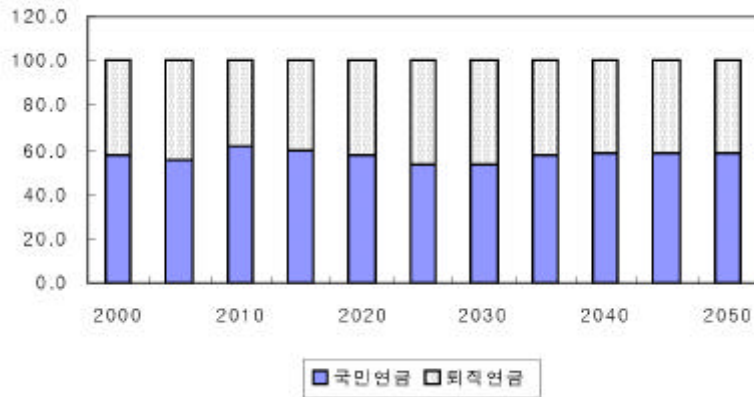
過去勤務債務償還

58%:42%

國民年金
 退職年金
 가 5
 基礎部門
 所得比例部門
 數的

私的年金規模

[圖 - 8] 收入保險料 公私年金間 比重 推移



制限的 2010

70%:30%

2030 40%

42%

積立基金 2000

60%:40%

5. 加入者 類型別 保険料 負擔 展望

加入者 類型	1998		2009		2010	
	2019	2020	2029	2030	2019	2020
事業場 加入者	7.5%	20%	8.5%	20%	6.5%	9.5%
使用者 被傭者	14%	17%	15%	15%	22.5%	26.5%
保守的 加入者	15.2%	15.2%	20.5%	25.5%	9.2%	3%

<表 - 14> 事業場 加入者 保険料率 負擔

(: %)

					(60%)		
		25%	20%	15%			
1998	2009	6.5	8.00	6.00	9.2	11.3	20.5
2010	2019	7.5	8.57	6.43	11.2	11.3	22.5
2020	2029	8.5	9.70	7.30	14.2	11.3	25.5
2030	2050	9.5	9.70	7.30	15.2	11.3	26.5

自營業者 農漁民

가 45%

11.8% 16.8%

<表 - 15> 自營業者 農漁民 保険料率 負擔

(: %)

		25%	20%	45%
1998	2009	6.5	5.3	11.8
2010	2019	7.5	6.3	13.8
2020	2029	8.5	7.3	15.8
2030	2050	9.5	7.3	16.8

· 民營年金 役割 增大 保險會社 對應課題

民營保險會社

商品開發, , 資産運用

1. 商品開發

가. 從業員退職保險 退職年金 統合

外部 受託機關

資金 生命保險會社

1).

損費處理가 가 稅制支援

2).

가

1) 1992 12

, “ ” 가

2) ('93) 가

, 가 26.7% (1,500).

1997 4

6 4,503

[圖 -1]

FY'92

27.3%,

56.5%, 47.3%

가 確定給付制

非釀出方式

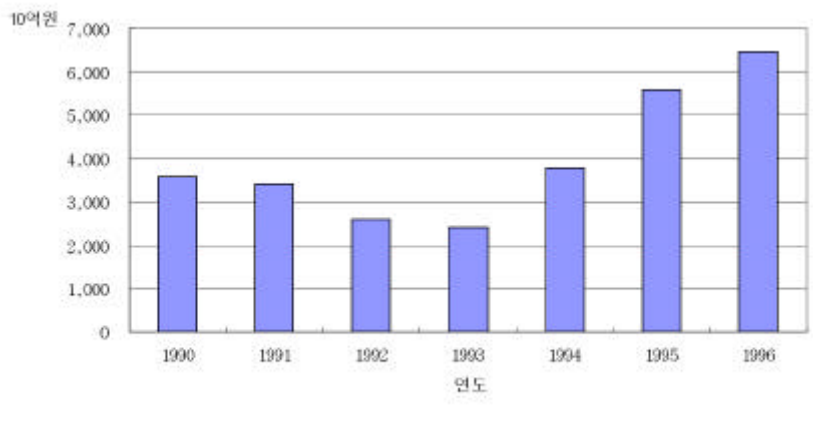
가

全面移行, 縱

的 分割, 橫的分割

3).

[圖 - 1] 從業員退職積立保險 收入保險料 推移



3)

가

4),

· 確定給付型 退職年金 開發

保險會社

商品開發

가

退職年金保險 ()

가

豫定死

亡率, 豫定利律, 豫定事業費率, 豫定脫退率, 豫定昇給率

가

가

가

가

가

가

金融機關

4)

가

가
 年金給付權(pension annuity)
 ,
 複合
 商品 가
 勤勞不能
 産業災害保險 가
 特約
 가
 가 勤災保險 '産
 災補償金 超過擔保⁵⁾, '使用者賠償責任擔保⁶⁾, '業務外傷害擔保特約⁷⁾

5) 가 가

6)

7)

21

가

가

가

單身家口

核家族

가

가

가

老人住居施設, 老人病院,

子會社

他業進出

「保險業法」

9 (

) 「保險會社

財産運用 準則」

가

가

가

가

<表 -1>

가

職員福利厚

生,

가

가 母會社

轉移

母子會社間

防火壁

2.

團體保險商品

가

企業規模別

大企業

中小企業

8).

企業福祉

外部化

9).

8)

1975 57%
43%
72%

1995

1991 28%

9)

, 가

가

()

가

가

가

專門性 , 附
加價值가 固定費用化

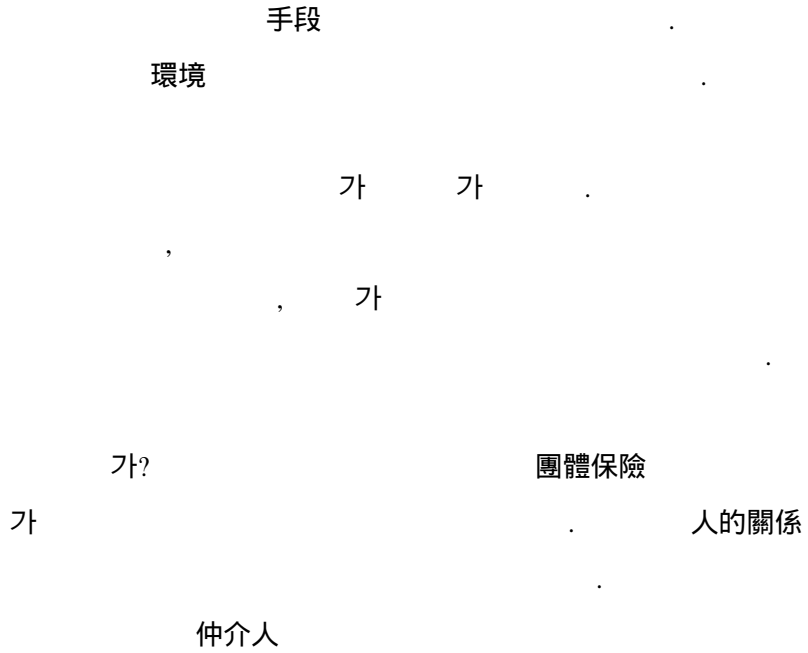
自己系列會社,
遊休資源 有效活用,
가

會社, 勞動組
合, 共濟會

移管
(out-sourcing)
(派遣) 外部化()

企業福祉
退職年金保險 가

代行 收益基盤



3. 資產運用

가 .
 貸出, 株式, 債券,
 不動産 .
 長期資本市場¹⁰⁾

10) 가

가

11), ,

國債

會社債 金融債가

가 1996 10%

가 債券市場 長期化

12), 1996 4 가

96.2% 短期去來 (表 -2).

<表 - 2> 償還期間別 會社債 發行 現況

(: %)

	4	4 5	5
1990	99.0	0.0	1.0
1991	93.6	3.4	3.0
1992	87.4	4.9	7.7
1993	89.9	5.0	5.1
1994	93.7	1.7	4.6
1995	93.9	0.2	5.8
1996	96.2	0.2	3.6

註: 額面基準.

資料: 證券監督院, 『證券調查月報』, 各號.

年金資産

가

11) 20 40

가 .

12) GNP 7% ,

株價가
 , 가
 評價損가 .13) 資産價
 值維持가
 ,
 不實債權
 長短點
 14), 가

經濟狀況 長期的 展望 短期的 變化

15),

資産 負債

ALM¹⁶⁾

13) 가 가 가

14) - (high risk - high return)

,

- (low risk - low return)

,

15) 가

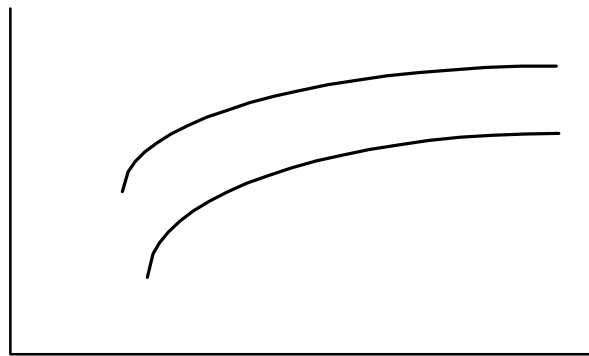
가

16) ALM 가

,

海外運用
 IMF 가
 (country risk)가
 가
 上方移動
 가
 [圖 -2]

[圖 - 2] 國際分散投資 效率的



金融技法 先進化가

17)

17)

海外先物去來
 가

財政的 安定性 , , 制度間 調和가

公的年金 民營年金() 調整 1).

過程 國民年金 基
礎國民年金 所得比例國民年金 二元化 .

, , 特殊職域年金
醱出料 給付金
連繫 .

適用 除外 .

가 標準生計費 60% 所得代替率

25%

20% , 가

15%

가 가 適用除外 ,

35%

强制 適用

1)

가

가 .

保險料 57% 43% 長期的 2020 財政 推計 2021 30 收入 53% 47% 2031

過去勤務債務償還 가 58% 42%

個人年金 가

2010 70% 30% 가 2030 60%

40% 42%

2000 60%

40% 가 2030 50%

2050 55%

自助努力

市場擴大 跳躍 機會가

, 極大化 가 가

, 가

確定給付型 退職年金 , 企業福祉 가

, 超長期的

年金ALM 資産運用

自助努力

가 脆弱點

가

巨視經濟的 效果

分析

微視資料가

가

가

公的年金

가

, 民營年金

가

本 研究

社會 · 經濟環境

公

私間

年金

가

研究課題

<參考文獻>

- (1997), 『
』,
- (1998), 「
!」,
- (1993), 『
』,
- 閔載成 外 (1992), 『國民年金制度 退職金制度 調整實施
所得保障制度 補完發展方案』, 韓國開發研究院.
- (1993), 『韓國 老齡化 推移 老人福祉對策』, 韓國開發研究院.
- 閔載成·金元植 (1990), 『韓國 退職金制度 企業年金制度 導入方
案』, 韓國開發研究院.
- (1997), 「主要國 公的年金 改革 動向 示唆點」, 『
가
』,
- , (1997), 『社會環境變化 民營保險 役割() :
總論』,
- 俞京濬 (1997), 『1997 最低賃金 審議 生計費 研究』,
- (1991), 「公的年金 企業年金 統合·調整
小考」, 『生協』, 1991 8 , 生命保險協會.
- (1996), 『
』.
- 韓國經營者總協會 (1997), 『
』.

(1997b), 『1997 』.

(1995), 『 』,

(1991), 『 』.

伊藤宗武・藤野信雄・吉牟田勳 (1991), 『企業年金』, 財経詳報社.

山田正次 (1996), 『変革期の企業年金戦略』, 日本経済新聞社.

原 智朗・岡崎康雄・上原弘史(1997), 「英国年金制度の近年の展開 - ス
ライド責任の民間への移行を中心に - 」, 『安田総研』, Vol. 19.

村上 清 (1993), 『年金改革 : 21世紀への課題』, 東洋経済新報社.

(財)厚生統計協会 (1995), 『保険と年金の動向』.

Blake, David(1997), "Pension Choices and Pension Policy in the
United Kingdom", in Valdés-Prieto, Salvador(ed.)(1997).

Blinder, Alan S. *et al.* "Social Security, Bequests, and the Life Cycle
Theory of Saving: Cross-Sectional Tests", in F. Modigliani and
R. Hemming (eds.), *The Determinants of National Saving and
Wealth*, New York: St. Martin's Press.

Bodie, Zvi and Alicia H. Munnell (1992), *Pensions and the Economy*,
Philadelphia: Pension Research Council.

Chernoff, Joel (1996), "UK Panel Pushes Pension System Overhaul",
Pension & Investment, Feb. 5.

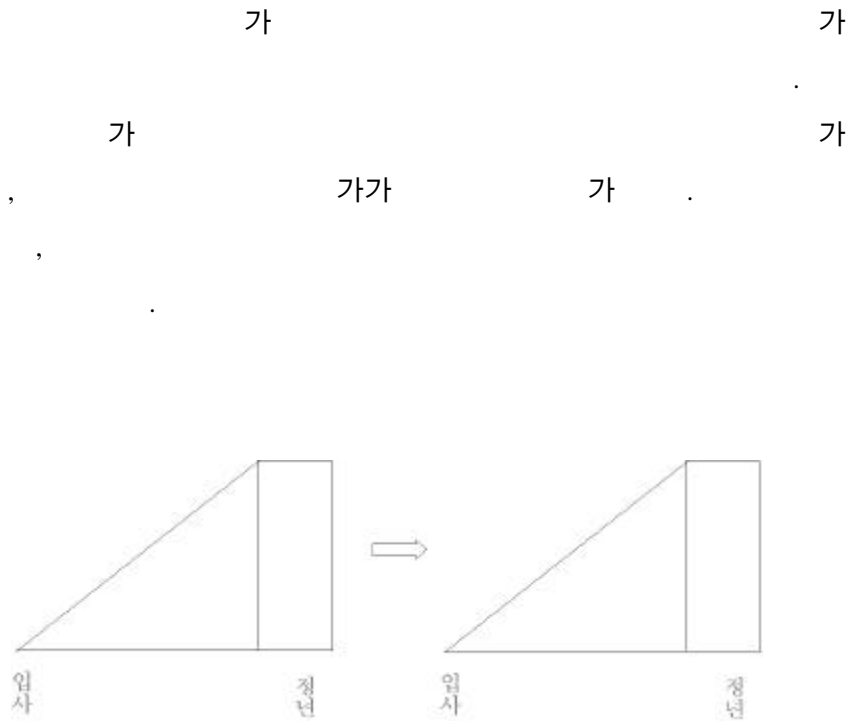
- Devine, Theresa J. (1997), "Demographics, Social Security Reform, And Labor Supply", in Steven A. Sass and Robert K. Triest (eds.) (1997).
- Diamond, Peter A. and Jerry A. Hausman (1984), "Individual Retirement and Savings Behavior", *Journal of Public Economics*, Vol.23, pp. 81 114.
- Dilnat, A., R. Disney, P. Johnson, and E. Whitehouse(1994), Pension Policy in the UK, London: The Institute for Fiscal Studies.
- Duskin, Elizabeth (1992), "Changing the mix of public and private pension: the issues", in OECD(1992).
- Edwards, Sebastian (1996), "The Chilean Pension Reform: A Pioneering Program", NBER Working Paper No. 5811, November.
- Engen, Eric M. and William G. Gale (1997), "Effects of Social Security Reform on Private & National Saving", in Steven A. Sass and Robert K. Triest (eds.) (1997).
- Falkingham, J. and P. Johnson(1992), "The Unified Pension Scheme for Britain?", London School of Economics, Welfare State Programme, Discussion Paper 90.
- Feldstein, Martin (1985), "The Optimal Level of Social Security Benefits", *Quarterly Journal of Economics*, Vol. 10 No. 2, May.
- Feldstein, Martin (1995), "Would Privatizing Social Security Raise Economic Welfare", NBER Working Paper No. 5281, November.
- Feldstein, Martin and Anthony Pellechio (1979), "Social Security and Household Wealth Accumulation: New Microeconomic

- Evidence", *The Review of Economics and Statistics*, Vol. 61 No. 3, August, pp. 361-368.
- Field, Frank (1996), "How to pay for the future: Building a stakeholders' Welfare".
- Fields, Gary S. (1994), "A Discussion of Social Protection and Private Insurance", *The Geneva papers on Risk and Insurance Theory*, Vol. 19 No. 2, December.
- Fields, Gary and Olivia S. Mitchell (1984), *Retirement, Pensions and Social Security*, Cambridge, MA: MIT Press.
- Giancarlo, C. and S. Kalus (1995), "Pension Reform and Growth", ICY Working Paper, The World Bank Policy Research Department, June.
- Gustman, Alan L. and Olivia S. Mitchell (1992), "Pensions and Labor Market Activity: Behavior and Data Requirements", in Zvi Bodie and Alicia H. Munnell (1992).
- Harrison, Debbie (1994), *Pension Provision in Europe*, FT Business Enterprise Ltd.
- Holzmann, Robert (1996), "Pension Reform, Financial Market Development, and Economic Growth: Preliminary Evidence from Chile", IMF Working Paper, August.
- Johnson, P., Disney, R. and G. Stears (1996), *Pensions: 2000 and beyond*, Institute for Fiscal Studies.
- Kotlikoff, Laurence J. (1995), "Privatization of Social Security: How It Works and Why It Matters", NBER Working Paper No. 5330.

- (1996), "Privatizing Social Security at Home and Abroad", *The American Economic Review*, Vol. 86 No. 2, pp. 368-372.
- Levine, Phillip and Olivia S. Mitchell (1988), "The Babyboom's Legacy: Relative Wages in the Twenty-First Century", *The American Economic Review*, 78: May, pp. 66-69.
- Marfan, Manuel and Barry P. Bosworth (1994), "Saving, Investment, and Economic Growth", in Barry P. Bosworth, Rudiger Dornbusch, and Raul Laban (eds.), *The Chilean Economy: Policy Lessons and Challenges*, Washington DC: The Brookings Institution.
- Mitchell, Olivia S. (1997a), "Exporting Chilean Social Security Reform", Pension Research Council Working Paper 97-1.
- Mitchell, Olivia S. (1997b), "Building an Environment for Pension Reform in Developing Countries", Pension Research Council Working Paper 97-7.
- Mitchell, Olivia S. and Gary S. Fields (1995), "Designing Pension Systems for Developing Countries", Pension Research Council Working Paper 95-12.
- OECD(1992), *Private Pensions and Public Policy*.
- Patricio, A. and S. Klaus(1995), "Pension System and Reform", ICY Working Paper, The World Bank Policy Research Department, June.
- Pesando, James E. (1992), "The economic effects of private pensions", in OECD (1992).

- Pestieau, Pierre (1992), "The distribution of private pension benefits: how fare is it?", in OECD (1992).
- Poortvliet, William G. (1997a), "Privatization and Reform of Social Security Pension Plans as a Global Trend Part : The Underlying Problem", *Journal of the American Society of CLU & ChFC*, July.
- Poortvliet, William G. (1997b), "Privatization and Reform of Social Security Pension Plans as a Global Trend Part : Social Security Reform", *Journal of the American Society of CLU & ChFC*, September.
- Quinn, Joseph F. (1997), "Social Security Reform: Marginal or Fundamental Change?", *Journal of the American Society of CLU & ChFC*, July.
- Sass, Steven A. and Robert K. Triest (eds.) (1997), *Social Security Reform Links to Savings, Investment, and Growth*, Federal Reserve Bank of Boston.
- Tanner, Michael (1996), *Public Opinion and Social Security Privatization*.
- Valdés-Prieto, Salvador(ed.)(1997), The Economics of Pension, Cambridge: Cambridge University Press.
- World Bank (1994), *Averting the Old Age Crisis*.

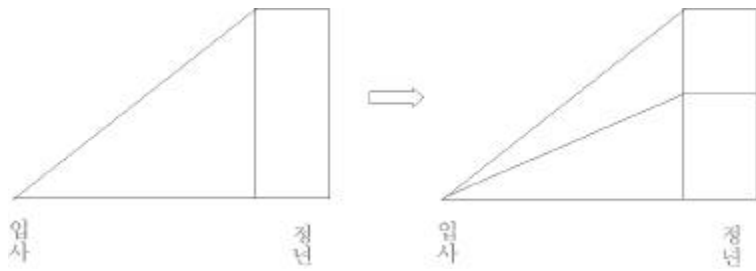
1. 全面移行



2. 部分移行

가

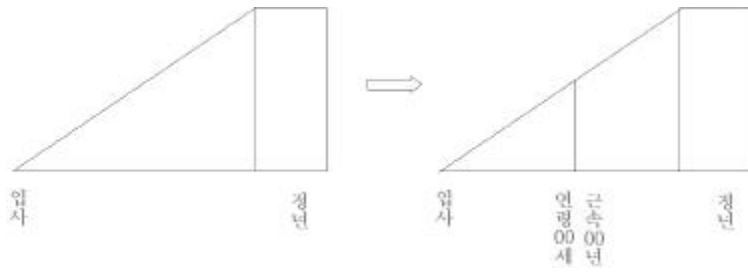
가. 橫的分割



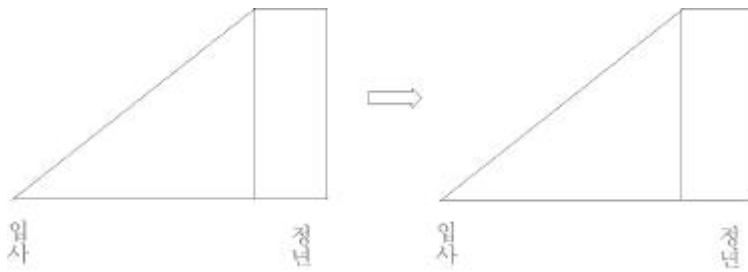
나. 縱的分割

1) (1)

(1)



2) (2)
(2)



가 .

3. 別途新設

가

가

가

[2] 退職給與充當金 稅制 惠澤

1. 所得稅法」上 規程

○ 「 29 () “
가

”

○ 「 57 () “
29

1. 1

10 1

2.

100 50

가

1 2

가 .”

2. 法人稅法」上 規程

○ 「 13 () “

